ノ南九州地区筋萎縮症の疫学的調査研究

国立療養所南九州病院
中島洋明　今隈　満
乗松克政　福永秀敏
栗山　勝*　納　光弘*
井形昭弘*　比嘉秀正**
*鹿児島大学第三内科
**琉球大学附属病院内科

過去5年間にわたり、南九州3県の疫学調査を行ってきた。52年度は、沖縄県と鹿児島県に於いて、前者は地区別検診、後者では、2つの地区に於けるfull surveyを行った。すでに鹿児島県に於いては、613名の筋萎縮症患者を得ているが、出来る限りの完璧な疫学調査を得るためには徹底的な情報収集と訪問検診を主体としたfull surveyが不可欠である。

〔方　　法〕

昭和50年度の未受診者101名を呼び出し、北部・中部・南部の3ケ所で検診を行った。これには、県障害援護課・日本筋ジス協会沖縄支部の協力を得、受診者総数73名で、その中から新規の筋ジス患者は32名でその内訳はTable 1に示す。昭和52年8月現在の沖縄県の進行性筋萎縮症患者はTable 2の如くである。

次に沖永良部島（和泊町・知名町）と薩摩半島の一画を占める川辺町・知覧町の2つの地区の全域調査を行った。ちなみに沖永良部島では、従来より我々が駆使している方法により得られた患者情報をもとに、85名に対し1次調査を述べ日数67日間にわたり行い、僅かでも筋萎縮症の疑れた31名に対し、医師3名が訪問検診を行い、11名の筋萎縮症患者を得ることができた（Table 2参照）。川辺・知覧地区も同様の方法で行ったが、この地区は従来より多発地区であり、結果は、沖永良部の約2倍近い高い有病率を示した。沖永良部島の有病率から概算すると、鹿児島県下の進行性筋萎縮症の推定患者数は約1100名となり、我々の現在得ている患者情報を更に360名も上回る数となることが明らかとなった。鹿児島県下の全域調査を行う上で更に興味のある点は、近藤による琉球型筋萎縮症である。その臨床的特徴は、四肢のdiffuseな筋萎縮と筋線維束攣縮、内反尖足、深部反射の低下～消失、10才台後半より症状が明らかとなり緩徐進行性であることであるが、この報告例の中には、いくつかの他の疾患が混入しているが、それらを除く主要な一群は、明らかに一つの臨床的特徴をそなえており、臨床病理学的検索により興味ある事実が明らかになるものと思われる。なお本症の一例を本年度当班会議に於いて、我々は特異な代射性疾患として想定し得る例を報告した。もう一つの興味は、非常に特異な疾患との遭遇である。知覧

川辺地区では、carebelltendinous xanthomatosisの一例が発掘され、沖永良部では、短身長・短頸・四肢関節拘縮を呈する2家系5症例を得たが、未診察の分も含めると26名の同様の患者の存在が疑れた。このものはSEDcongenita あるいはKniest syndromeに近縁の遺伝性骨関節疾患と考えられる。このような一方では筋萎縮症以外の遺伝性・代謝性疾患を発掘し、その病因解明の糸口をみつけることが可能であり、筋萎縮症の全域調査は、筋萎縮症にのみ限定されない大きな意義がある。

Table 1　A group examination of progressive muscular atrophy in OKINAWA 1977

Myogenic	
PMD	
DUchenne	5
limb-girdle	2
FSH	1
congenital myopathy	2
myotonic dystrophy	10
others	1
unclassified	2
Neurogenic	
ALS or SPMA	1
K-W disease	5
spinocerebellar degeneration	1
miscellaneous	1
total	32

Table 2　Progressive muscular atrophy in south of kyushu (1977)

	沖　縄	川辺・知覧地区	沖永良部島	徳之島(s49・5)
Myogenic				
PMD				
Duchenne	31(3.0)	0	0	3(10.0)
Limb-Girdle	15(1.4)	9(32.3)	1(5.9)	
FSH	4(0.4)	0		
myotonic dystrophy	24(2.3)	1(3.6)	1(5.9)	1(3.3)
congenital myopathy	12(1.2)			
others	2(0.2)		3(17.9)*	16(53.3)*
Neurogenic				
ALS or SPMA	9(0.7)	1(3.6)	2(11.8)	2(11.8)
Hirayama disease	0	1(3.6)		
K-W disease	19(1.8)	2(7.1)		
W-H disease	1(0.1)	0		
CMT disease	3(0.3)	1(3.6)	1(5.9)	2(6.7)
spinocerebellar degeneration	3(0.3)	1(3.6)	2(11.8)	3(10.0)
spastic spinal parapregia	14(1.3)	8(28.7)		1(3.3)
miscellaneous	1(0.1)	11(39.5)	1(5.9)	
unclassified	15(1.4)			
Total	153(14.7)	35(125.8)	35(65.2)	26(86.7)

( )内は人口10万当りの頻度

*は近藤による琉球型筋萎縮症

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

過去5年間にわたり、南九州3県の疫学調査を行ってきた。52年度は、沖縄県と鹿児島県に於し、て、前者は地区別検診、後者では、2 つの地区に於けるfull surveyを行った。すでに鹿児島県に於いては、613名の筋萎縮症患者を得ているが、出来る限りの完璧な疫学調査を得るためには徹底的な情報収集と訪問検診を主体としたfull survey が不可欠である。